

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↑ 14	6	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↑ 99	84	ヘルパンギーナ	↓ 2	8
咽頭結膜熱	↑ 22	3	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 66	77
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 119	82	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 481	367	流行性角結膜炎 (はやり目)	↑ 18	9
水痘	↑ 84	67	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 4	2	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	→ 6	6	マイコプラズマ肺炎	→ 7	7
突発性発しん	↑ 39	38	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎
- RSウイルス感染症

- 感染性胃腸炎は、報告数 481 件(前週報告数 367 件)と増加。地区別では、有明、宇城、八代に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の68件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 119 件(前週報告数 82 件)と増加。地区別では、天草、菊池、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、5歳及び7歳の20件を最多に主に10～14歳以下からの報告である。
- RSウイルス感染症は、報告数 99 件(前週報告数 84 件)と増加。地区別では、宇城、天草、八代に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の35件を最多に、4歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	13	31	9	63	114	35	0	3	17	0	0	24		16				3
山鹿保健所	0	0	0	0	27	2	0	0	0	0	0	0	*	*				
菊池保健所	0	10	8	16	39	14	0	0	8	0	1	11						
阿蘇保健所	0	0	0	1	5	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	16	0	4	61	0	0	0	3	0	0	6						
水俣保健所	0	0	0	0	14	0	0	1	0	0	1	3	*	*				
人吉保健所	0	1	0	9	15	3	0	0	3	0	0	3	*	*				3
有明保健所	1	4	3	2	110	9	0	1	4	0	0	12		2				
宇城保健所	0	20	1	6	51	7	0	0	0	0	0	0						
天草保健所	0	17	1	18	38	13	4	1	4	0	0	7						1
計	14	99	22	119	481	84	4	6	39	0	2	66	0	18	0	0	7	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	
インフルエンザ	14				1				1	3				6		1	1				1	
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上							
RSウイルス感染症	99	18	29	35	8	8	1															
咽頭結膜熱	22		1	9	4	2	3	1	1		1											
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	119				7	8	16	20	16	20	7	8	13		4							
感染性胃腸炎	481	8	24	68	61	53	42	43	39	25	22	18	36	9	33							
水痘	84	3	7	18	15	12	14	6	2	4	1	2										
手足口病	4		1	2	1																	
伝染性紅斑	6			1	1	1			2				1									
突発性発しん	39		21	17	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	2		1		1																	
流行性耳下腺炎	66		1	4	5	10	9	13	8	4	4	2	5		1							
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	18		1											1	3	6	2	4	1			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	7			4				1	1								1					
クラミジア肺炎	0																					

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

感染性胃腸炎：有明

A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

現在、増加傾向にあるA群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、冬季及び春～初夏にかけて2つの報告数のピークがあるといわれています。本県においても、今年6月20日～6月26日の週の94件をピークとした増加がありましたが、今週はその報告数を上回る報告がありました。2～5日の潜伏期のあと、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。通常は1週間以内に症状はおさまりますが、のどの点状出血や、莓舌(莓の表面のように赤くぶつぶつになる)が見られることもあります。また、しょう紅熱(顔や体に点状紅斑や皮疹等が出現する)を起こすこともあります。腎炎などの合併症を起こすこともありますので、症状があったら早めに医療機関を受診してください。患者のせきやくしゃみから感染しますので、兄弟間や、学校・幼稚園・保育園など集団生活施設内での感染も多く見られます。予防にはうがい・手洗いなどの一般的な予防法の励行が重要です。